

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定会議（外部委員会）

第2回委員会 議事録

日時 令和7年(2025年)1月17日（金）

16:30~17:40

会場 鎌倉市山崎浄化センター1階会議室（zoom 併用）

1. 出席者

<会場出席>

委員

委員長

金子 雄一郎（社会資本マネジメント）

副委員長

勝地 弘（道路）

委員

出雲 淳一（道路）

委員

堀江 信之（下水道・河川）

鎌倉市

事務局

都市整備部（下水道河川課）

杉浦次長

都市整備部（都市整備総務課）

高橋次長

都市整備総務課

横山担当係長

富樫

永井

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニアリング株式会社

<リモート出席>

委員

飯田 晶子（緑地・公園）

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニアリング株式会社

2. 議事日程

- 1 アンケートの実施状況について
- 2 その他
 - ・次回委員会について

3. 内部委員会資料

- ・ 資料0：次第
- ・ 資料1：計画改訂に向けたアンケート実施内容及び委員意見等の反映状況
- ・ 資料2：アンケート結果（速報）概要

4. 協議内容

(1) アンケートの実施状況について

- ・ 委員長：それでは、議事に入ります。次第の1「アンケートの実施状況について」事務局より説明をお願いいたします。
- ・ 事務局：一資料1説明一
- ・ 事務局：続けて、アンケートの取組み状況については八千代エンジニアリングから説明させていただきます。
- ・ 事務局（コンサル）：一資料2説明一
- ・ 委員長：ご説明いただきましてありがとうございました。残りの時間で質疑や議論を行いたいと思います。まず資料1について、「各委員からの主なご意見・ご指摘」のアンケートの対応部分を確認したいのですが、どこに反映されていますでしょうか。
- ・ 事務局：金子委員長のリスクに関するご指摘については、共通アンケートの中でより具体的に回答できるように回答例を追加し、様々な観点から回答できるようにいたしました。また、防災に関するご指摘については、防災インフラの維持管理強化に関する設問を新たに追加いたしました。勝地委員の事務の合理化や効率的な配置に関するご指摘については、IT技術の進化による業務の効率化の観点から回答ができるような回答例を追加いたしました。出雲委員の技術伝承に関するご指摘については、職員の視点からの回答例を追加いたしました。具体的には、異動後のスムーズな業務着手や、技術の引継ぎに寄与するツールに係る回答例を追加しました。また、若手が現場で学ぶことを目的とした、積極的な現場への参加といった要素についても回答例に追加いたしました。なお、公園の防災機能に関するご指摘については、インフラの維持管理強化や地域防災計画を踏まえた災害時における機能維持の取組の設問に、広域避難場所に関する回答例を追加し、個別の防災関連の計画を持っていない部署でも、その代わりとなる地域防災計画を踏まえた各部署での取組について回答できるようにいたしました。委員のご指摘については、アンケート資料に将来的な課題解決の視点を追加いたしました。また、アンケート実施に当たっては各課だけでなく、事務局が計画改訂の全体的なイメージを持っておくべきだというご指摘もいただきました。事務局として今後の計画改訂のイメージを持つというところで、計画改訂におけるストーリーを整理することを考えております。飯田委員のグリーンインフラに関するご指摘については、アンケートの機会に改めて意識してもらうということで、新たな設問を追加いたしました。
- ・ 委員長：ありがとうございました。何か委員の皆様からございますでしょうか。
- ・ 委員一同：一特になし一
- ・ 委員長：続きまして資料2についてご質問やご意見等ございましたらよろしくをお願いいたします。今回は4つの施策についてご説明いただきましたが、施策は全部で56個あると理解しております。今回の委員会では全ての施策について、取り組み内容と今後の方針についてご説明いただけるのでしょうか。
- ・ 事務局（コンサル）：運営していく中で休止や廃止・完了しているものがございまして、現在動いているのは40程度の施策でございます。
- ・ 委員長：今回ご説明いただいた4つの施策は特徴的だということで抽出されたのでしょうか。
- ・ 事務局（コンサル）：施策内容や、見直しや継続といった施策の方向性、課のバランスを考慮して抽出いたしました。
- ・ 委員：No.11の橋梁等のネーミングライツについて、民間事業者の関心が低く、継続困難となっておりますが、ネーミングライツというのは名称の権利だけでなく、名称を表示することも含んでいるのでしょうか。
- ・ 事務局：橋梁は、一般的にネーミングライツが導入されるスタジアム等と異なり、日常的に話題にな

るものではないため、名称の権利だけでなく、企業名等を表示する前提でヒアリングを実施しましたが、企業の反応としては橋梁のネーミングライツの需要は低いということでした。

- ・ 委員：歩道橋の側面に企業の名前が入っているものを見たことがあり、目に入りやすく、効果があるのではないかと思いますでしたが、需要は無かったということで理解いたしました。
- ・ 委員：表 1 の No.4 の LINE による通報システムについて、これは通報全体の 15%にとどまると書いてありますが、周知すればもう少し上がるのでしょうか。また、表 2 の No.1 のアウトソーシングをすることは、職員の不足に対する解決策ではあると思いますが、結果として歳出が増えることになると思います。安易にアウトソーシングすればよいという問題でもないと思いますし、AI や合理化等に積極的に取り組んでいただく方がよいと思いました。
- ・ 事務局：LINE による通報システムにつきましては、鎌倉市の公式 LINE を友達登録してもらうと道路関係の通報を利用できるシステムとなっておりますが、市の公式ラインが頭打ちをしている状況に伴い、電話やメールによる通報が多く、通報全体の 15%にとどまっている状況でございます。担当課が近隣自治体にヒアリングしたところ、課を問わず市のあらゆる問い合わせを LINE で対応できるようにしている自治体があり、そのような自治体では、全体の通報のうち、かなりの割合が LINE によるものとなっているとのことでした。そのため利用者数の増加には、市全体の問い合わせが対応できるようにするなどシステムを充実させ、その中に道路の通報システムを取り込むことが必要であると考えております。
- ・ 委員：表の 2 の No.1 の道路分野で導入検討している包括的民間委託では、橋梁や道路を全て含めて民間に委託するというイメージでしょうか。
- ・ 事務局：対象施設について、橋梁等は現時点で考えておらず、舗装を対象とすることを検討しています。損傷や街路樹に関する通報を受けて現場に行き、対応する等の簡易な工事を包括化することを考えています。また、府中市が道路分野で包括的民間委託を全国的に先立って導入していることから、府中市で包括的民間委託を受託している事業者にはヒアリングを実施しています。包括的民間委託の最初のステップとしては、エリアを限定したり、対象を限定したりすることを考えています。
- ・ 委員長：補足させていただきます。府中市の場合では、道路舗装の維持管理に加えて、橋りょう、街路樹などの管理も含めています。民間事業者が道路管理センターを開設し、そこで年間 3000 件前後の苦情や通報への対応を行っています。包括管理は、最初は市の一部のエリアで導入しましたが、現在は市全域で導入しています。
- ・ 委員：技術系公務員にとって、技術力に関わる場所はやりがいを感じられるところであると思います。アウトソーシングも大事ですが、職員の技術力が空洞化してしまう恐れがあるため、外部の研修会や DX の活用等を通して、担い手を確保し、業務量を確保していくのが良いと思います。
- ・ 委員長：道路分野だけでなく、技術職員の確保については市全体での方針を考える必要があるかと思っています。採用状況はいかがですか。
- ・ 事務局：何人足りていないかは明言できませんが、採用しても途中で辞退されてしまったり、中堅職員が転職してしまったりすることがあります。加えて異動もある中で、なかなか人も足りない上に業務量も多く、作業の効率が落ちてしまっていると思っています。
- ・ 委員：アンケートも全体像が見えないのですが、全般に手がまわっていない状況下、マネジメント計画について議論するせっかくの機会ですので、ただ定期的だから見直しに大きな人とお金の投入をすることなく、人・金が益々不足する時代に、まず最終目標を共有する、計画改訂の成果やそれによる効果を意識していただけたらと思います。全体の作業管理を進める体制を市の方で強化いただき、まずは評価することからプランニングは始まります。そして「改善」をマネジメント層中心に実行すると、全体がどれだけよくなったかも見えてくると思います。どういう効果を目指すのか、今お考えのことがあったら、お伺いしたいです。
- ・ 事務局：評価をしてから次を考えるというのはその通りであると思います。今回実施したアンケートのうち、課別アンケートがまさにこれまで各課が取り組んできた施策について、感じていた課題等を

確認するものとなっています。回答は集まったのですが、課別アンケートではつかみ切れないところがあるため、コンサルタントと一緒に個別にヒアリングを行い、深堀りしている状況です。今回はそのヒアリングの結果整理が間に合わず、全体的な評価をお見せできなかったことについては、申し訳ございません。今回の改訂の効果について、各課では予防保全に取り組むことは分かっていたが、これまで考える余裕がなかった部分も含め、アンケート結果を通じて、課題を認識するということもあると思っています。

- ・ 事務局：40年の計画であり、計画を策定してから8年経ちまして、今後の30年間の計画を立てるにあたって、さらによりよく実現性のあるものになるように見直していこうと思っています。計画通りにいかなかった部分もあるかと思いますが、それらの課題を整理しながらより実効性のある計画に組み立てていこうかというのが、今回の改訂の趣旨でございます。
- ・ 委員長：次の会議で、計画に対して各課が取り組んできた施策を継続するのか、あるいは見直すのかを見せていただけたらと思います。各課の取組みを踏まえることにより、市全体で整合が取れていないことがないように留意したうえで、マネジメント計画を作る意味や効果も含めて、この場で議論をしていけたら良いと思っています。
- ・ 委員：アンケートを実施した後の動きとして、全課の回答をまとめたものは各課にフィードバックする予定でしょうか。
- ・ 事務局：ヒアリングの結果もふまえて各課にフィードバックする予定です。
- ・ 委員：課題が類似していることもあるかと思いますが、とても有意義だと思います。改訂というのはかなり労力のかかる作業であり、策定している計画が多すぎるという話もあります。町田市では、都市計画マスタープランに住宅と交通のマスタープラン、緑の基本計画を統合することで、改訂に必要な労力を削減しながら、分野横断で連携し、より充実した計画を策定することとなったと聞いています。社会基盤施設マネジメント計画は、まさに総合的なものであり、改訂作業は全体を俯瞰して見ることができる機会だと思うので、そのような方向も視野に入れることができればよいと思います。
- ・ 事務局：国の方で法律が改訂されるたびに、努力規定として計画を持つようになり、計画がかなり多い状況です。鎌倉市では公共施設は別に総合的な計画を持っているため、マネジメント計画と統合するということもひとつの考えとしてあるかと思っています。今後、計画の見直し等の機会において、その方向の議論も行われるかと思いますが、現状はあまりない状況です。
- ・ 委員：今回のアンケートの結果も見ながら、統合できそうな箇所に関する議論が徐々に進むと良いと思っています。

(2) その他 次回委員会について

- ・ 委員長：事務局より説明をお願いいたします。次回の委員会の開催にあたっては、各課のアンケートの結果等、議論する資料を事前に共有いただきたいと思います。
- ・ 事務局：次回委員会の日程及び場所について説明、第1回及び第2回の会議録作成について説明
- ・ 委員長：それでは、これもちまして本日の委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上